

令和 6 年度

「運営に関する計画」
(最終評価)

大阪市立真田山幼稚園
令和 7 年 3 月

大阪市真田山幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題**<真田山幼稚園教育目標>**

「明るく、たくましく、心豊かな真田山っ子を育てる」

*健康で明るい子ども *自分で考える子ども *仲良く遊ぶ子ども

*人の話を聞く子ども

<真田山幼稚園の現状と課題>

- 落ち着いて活動できる子どもが多い。気付いたことなどを発言することはできるが、友達と意見や思いが食い違うとうまく言葉で伝え合い、自分たちで解決することが難しく、我慢してしまったり、トラブルに発展したりすることがある。
- いろいろなことに興味、関心をもつものの、同じような遊びをすることが多く、主体的に遊びを発展したり、根気よく取り組んだりする力が弱い。
- 基本的生活習慣は身につけているものの、必要性を感じながら、自ら進んで行うことが難しい。
- クラス数が減り、園児や職員の数も減っている。そこをうまく生かしながら、今後はより、子ども同士の関わりを深めたり、職員の連携を密にしたりしていく。
- 今後の状況に応じて、子どもたちが安全に生活できるように保育や行事の内容などの見直しが必要である。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和7年度の保護者アンケートで「安心して自分の思いを表出し、相手の思いにも気付けるようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の保護者アンケートで「友達と思いを伝え合いながら、主体的に活動し、考えたり工夫したりしながら遊べるようになった」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。
- 令和7年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で肯定的意見が85%以上になるようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。
- 令和7年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で肯定的意見が80%以上になるようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】**園の年度目標**

- 令和6年度の保護者アンケートで「安心して幼稚園で生活し、自分の思いを出したり、相手の思いに気づいたりできるようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。
- 令和6年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】**園の年度目標**

- 令和6年度の保護者アンケートで「主体的に活動する中で、友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。
- 令和6年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】**園の年度目標**

- 進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。
- 令和6年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和6年度の保護者アンケートで「安心して幼稚園で生活し、自分の思いを出したり、相手の思いに気づいたりできるようになった」の項目で「そう思う」の回答は66%であり、前年度の62%を上回る結果となり、目標を達成した。教職員同士が連携して子どもの実態把握に努め、多角的に子どもを捉えるようにしてきた。また、ありのままの自分を大切にしたり、気持ちを言葉で伝えたりできるような指導を普段の生活や保健指導を通して計画的に行ってきた。それらのことにより、子どもが安心して生活する教育環境が実現し、自分も相手も大切にしようとする姿が見られるようになり、目標達成につながったと考える。
- ・令和6年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で「そう思う」の回答は75%であり、前年度の63%を大きく上回る結果となり、目標を達成した。クラス内で、互いのよさや頑張りを認め合う機会をもつことに加えて、異年齢同士が育ち合えるように教職員同士が連携して保育環境を整え、日常の中でポジティブコミュニケーションを増やしていくようにした。また、地域や他校種との関わりを通して、いろいろな人との関わりを楽しみ、その中で認められたり褒められたりする喜びを経験した。それらのことが自信をもつ姿につながり、目標達成につながったと考える。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和6年度の保護者アンケートで「主体的に活動する中で、友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で「そう思う」の回答は72%であり、前年度の64%を大きく上回る結果となり、目標を達成した。季節や発達段階に応じて保育環境を見直し、異年齢が刺激を受け合いながら遊べるようにした。また、就学前教育カリキュラムを活用し、季節や実態に応じた題材や教材を選び、子ども自らが考えたり試したりできるようにした。それらのことが子どもが主体的に活動する姿につながり目標達成の要因になったと考えられる。
- ・令和6年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で「そう思う」の回答は75%であり、前年度の71%を上回る結果となり、目標を達成した。年間を通して、計画的に基本的生活習慣を身に付けられるように指導を行い、公園を活用したりいろいろな体の動きを遊びに取り入れたりする指導を行ってきた。さらに今年度は5歳児が、「全国国公立幼稚園・こども園 特別事業全国キャンペーン近畿ブロック研修会」に参加した。当日に向けて、味原幼稚園の5歳児や保護者と体を動かす機会をもち、3・4歳児も参観を計画したことにより、楽しんで体を動かす姿が見られ、目標の達成につながった。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・研修や研究を通して、職員一人一人が学ぶ機会をもつことができた。また、保護者に教育内容を「知徳体」の視点から伝えるために定期的に資料作成したことや「全国国公立幼稚園・こども園 特別事業全国キャンペーン近畿ブロック研修会」に園として参加したことも、教職員の資質向上につながった。以上のように、保育を学び合う教師集団の育成に取り組むことができ、目標を達成することができた。
- ・令和6年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で「そう思う」の回答は83%であり、前年度の74%を大きく上回り、目標を達成した。ホームページを定期的に更新したり、地域や他校種との関わりの中で子どもの育ちを見ていただく機会をもったりすることにより保護者や地域に幼稚園教育を発信することができた。また、写真を使用した掲示物やドキュメンテーションを通して、「知徳体」の視点から捉えた子どもの育ちを伝えたことが、保護者の幼稚園教育の理解につながり、目標達成の要因になったと考える。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 園の年度目標 ○令和6年度の保護者アンケートで「安心して幼稚園で生活し、自分の思いを出したり、相手の思いに気づいたりできるようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度62%） ○令和6年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度63%）	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】 子ども一人一人の実態や友達関係を把握し、安心できる環境づくりに取り組む。 指標 ・学期に1回、園内委員会を開く。 ・月1回以上、子どもたちの様子について話し合う機会をもつ。	A
取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】 子ども一人一人がありがたの自分の自分を大切にできるようにしていく。 指標 ・心や体を大切にできるような保育内容を工夫する。 ・CAPのプログラムを受講する。（5歳児）	A
取組内容③【2 豊かな心の育成】 自信をもって活動できる環境や保育内容を工夫する。 指標 ・月1回、良いところや頑張っているところを他児と認め合う機会をもつ。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 学期に1回園内委員会を開き子ども一人一人の様子や友達関係について話し合った。それ以外にも、月1回以上は、保育後にその日あった出来事などを職員間で話をし、子ども一人一人の実態把握に努めてきたことで、幼児理解が深まり、一人の子どもを多角的に捉えることができた。担任だけでなく職員全員で実態把握することにより、子どもの姿や育ちの様子を担任以外からも保護者に伝えることができ、保護者の安心につながった。そのことが、子どもが安心して生活できる環境となった。 ② 全学年に、自分の体を大切にすることにつながる指導を行った。体の名称や働きについて知らせたり、特に3・4歳児には、普段の生活の中で気持ちを言葉で伝える大切さや、互いに思いやる行動や言葉などについて考えられるように指導したりした。それぞれの指導を通して、自分の体に対する関心が見られ、体を大切にすることにつながった。また、指導前に比べると他者に対する言動に配慮する姿が見受けられるようになり、自分も相手も大切にしようとする意識につながった。 5歳児は、CAPのプログラムを2月下旬に2日間にわたって受講した。これによって、自分自身が持っている「権利」について知り、特に「安心・自信・自由」の3つの権利が大切なことから、それらを守るための方法を学ぶことができた。自分の心と体を守り、安心して過ごすことへの意識が高まった。 ③ 年間を通して各クラスで週1回以上、互いの良いところや頑張っているところを認め合う機会をもつことができた。また、異年齢児同士が互いに関わり合えるよう、教職員間で連携し、月1回以上5歳児が3・4歳児をリードする機会や互いの学年の遊びを見合う機会をつくった。その中で5歳児は、3歳児に優しく接したり教えたりする経験を通して、役に立つ喜びを感じ、自信につながった。3・4歳児は、5歳児の姿に刺激を受け、憧れの気持ちを持ち、いろいろな遊びに意欲的に取り組む姿が見られるようになった。	

<p>また、地域や他校種との交流を通して、歌や遊びなどを披露して拍手をもらったり褒められたりする経験からいろいろな人から認められる喜びを感じ、自信につながった。</p>
<p>次年度の改善点</p>
<p>① 今年度は、支援を要する子どもに付くフリーの教師を固定にしていた。子どもの様子を話し合ったり、園内で見かけた時に関わったり、一人一人の子どもの実態など共通理解はしていたが、細かい具体的な支援をどのようにしているのかは、実際に関わってみないと分からないこともある。クラスを越えていろいろな教師が支援に入る体制づくりを行う。</p> <p>② 教職員同士で現状や課題などの情報共有をしながら、いろいろな発達段階の子どもが理解できるような指導及び掲示物のさらなる工夫をしていく。</p> <p>③ 次年度も一人一人が自信をもって活動できる保育実践をしていくために、教職員間の連携を密にし、それぞれのクラスでの遊びを充実させ、さらに他クラスと関わり合えるよう、保育計画を立て、環境を整えていく。また、いろいろな教師がクラスに入っていけるような体制づくりをし、子どもとの関係づくりに努め、ポジティブコミュニケーションが増えていくようにする。また、次年度も地域や他校種と交流していけるように計画を立て、活動内容の充実を図る。</p>

大阪市立真田山幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 園の年度目標 ○令和6年度の保護者アンケートで「主体的に活動する中で、友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。(昨年度64%) ○令和6年度の保護者アンケートで「自分の体を大切にし、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。(昨年度71%)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 主体的に活動する中で、相手を思いやることができる子どもを育てるための保育を工夫する。	A
指標 学期に1回以上、園内の環境を見直す機会をつくる。	
取組内容②【3 幼児教育の推進と質の向上】 友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しめるような環境を工夫する。	A
指標 就学前教育カリキュラムを週案で活用していく。	
取組内容③【5 健やかな体の育成】 基本的生活習慣を身に付けられるような指導を工夫する。	B
指標 学期に1回以上、保健指導を行う。	
取組内容④【5 健やかな体の育成】 楽しんで体を動かして遊ぶような保育内容を工夫する。	A
指標 学期に1回、公園を活用する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>① 月1回以上、担任同士で連携を取り合い、保育環境を見直すことができた。1学期には、生き物を廊下で飼育し、いつでも見られる環境にしたことで、いろいろな生き物に触れることで親しみをもつようになり、小さな命を大切にする姿につながった。また、運動会後には、5歳児が遊んだパラバルーンで、異年齢同士で関わり合いながら一緒に遊んだり、保育室で楽しんでいる遊びに他クラスの友達を誘いかけてたりして、異年齢で遊ぶ機会を積極的につくった。これにより、年下の友達を思いやって優しく関わったり、年上の友達に憧れの気持ちをもったりして、互いに刺激を受け合いながら遊ぶ姿につながった。さらに、5歳児がサンタさんへの手紙を入れるポストをつくり、全員が見られる場所を考えて設置したり、ふれあいデーで遊びに来た未就園児に対し、小さな子も楽しめる遊びを考えて誘いかけてりと、これまで異年齢交流の経験を積み重ねてきたことで相手を思いやって遊びを工夫する姿が見られるようになった。</p> <p>② 各クラス担任が就学前教育カリキュラムを活用して週案を作成し、それをもとに他職員とも連携を図りながら保育を進めた。運動会や生活発表会の教材や題材選びでは、子どもたちの実態を把握し、それぞれの学年の育ちを見通して、ねらいをもって選ぶことができた。その結果、どの学年の子どもも楽しんで参加し、その後も継続して運動会の遊びや劇遊び、楽器遊びを楽しむ姿が見られた。また、年間を通して季節に応じた自然環境を活かし、夏には園庭で育てた</p>	

花を使って色水づくりをしたり、冬には雪が降る戸外に出て遊んだり、氷づくりをしたりなど、自然現象を遊びに取り入れられるような環境を整えた。子ども同士で試したり考えたりできるような教材や環境を工夫することで、友達と一緒に考え合いながら遊びを広げて楽しむ姿が多く見られた。

- ③ 計19回、全園児に向けて、発育測定後や学級活動時に基本的な生活習慣についての保健指導を行った。指導時にクイズ形式を取り入れながら、子どもが興味をもてるようにした。また掲示物を作成し、継続して取り組めるように、個別指導や全体への指導を行った。幼児の実態や感染症流行の動向に合わせて保健指導を行ったことで、自分の体を大切にしようとする意識が高まった。手洗い指導や歯みがき指導は、繰り返し取組を行うことで、習慣化する様子が見られた。また、HPや手紙を活用して保健指導の様子について保護者などに積極的に発信した。
- ④ 1学期は鶴見緑地公園(親子遠足)、八幡屋公園(4・5歳児)、2学期は南楽園、大阪城公園へと園外保育に出かけた。また、3学期は真田山グラウンドを利用して凧揚げをする予定だったが、悪天候により真田山小学校校庭を利用させていただいた。学期に1回以上園外に出かけることで、園内では経験できない活動を行い、体を思い切り動かす楽しさを味わうことができた。園内では、ボール遊びや鬼ごっこなど年齢に合わせて遊びを工夫してきたことで、異年齢同士が関わりながら体を動かす楽しさを共有する姿が見られた。また毎月の誕生会や、保育参観(3・4歳児)では保護者とも触れ合い、一緒に体を動かす楽しさを味わう機会をつくった。5歳児は「全国国公立幼稚園・こども園 特別事業全国キャンペーン近畿ブロック研修会」に保護者と一緒に参加し、外部講師から指導を受けることで、子どもの体の動かし方に変化が見られるようになった。

次年度の改善点

- ① 今後も異年齢交流を積極的に行える環境を整えていき、相手を思いやることができるように働きかけていく。そのためには、職員間の連携も進めていきたい。進級し、さらに今年度の経験を生かせるように働きかけていく。
- ② 次年度も職員間で連携をさらに深めていく。
- ③ 幼児の心身の健康に対する意識を高めるために、養護教諭と担任が連携し、幼児の発達段階やタイミングを図りながら指導を行う。また、継続した指導が必要なことから、保護者啓発をする機会を設け、取り組みを行っていく。
- ④ 計画的に公園を活用したり、職員が運動機能に関する教材研究を行ったりして、さらに保育内容を工夫していく。また、保護者と触れ合える機会をつくるだけでなく、遊びからどのような運動機能が備わるのか、具体的な運動遊びを保護者にも啓発していく。

大阪市立真田山幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組みず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 園の年度目標 ○進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。 ○令和6年度の保護者アンケートで「家庭や地域へ教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。(昨年度74%)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 研修、研究に進んで取り組み、一人一人の資質向上を図る。 ----- 指標 ・年3回、実践記録を検討したり、園内研修を実施したりする。 ・研修した内容について伝え合う。	A
取組内容②【9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 家庭や地域へ教育内容を発信していく。 ----- 指標 ・月1回以上、ホームページを更新する。 ・学期に1回以上、教育内容を分かりやすくまとめて、様々な方法で発信していく。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

- ① 実践記録の検討を2回、園内研修を5回実施し、教職員間で学び合いの機会をもつことができた。保護者の協力を得て、全教員が参加できる方法で実施したことで、全員で保育を見学して学びを深めることができた。また、教育指導員からも、子どもの姿を見ながら、指導案や子どもの姿の捉え方についての指導を受けることができ、学びの機会となった。客観的に見てもらうことで、子どもの遊びについてや働きかけなどを改めて考えることができ、教員の資質向上につながった。さらに、他園の研究保育に参加したことで、保育環境や働きかけについて学ぶことができた。また、子どもが人と関わる中で葛藤する姿から子どもの思いについて考える機会をもったことで、様々な育ちに気付くことができた。市立幼稚園教育研究会で、人との関わりを楽しめる遊びについての実技研修に参加し、いろいろな遊びを知る機会となった。「全国国公立幼稚園・こども園 特別事業全国キャンペーン近畿ブロック研修会」では、身近な用具を使って子どもと一緒に体を動かす遊びについて学ぶことができ、教職員の資質向上につながった。
- ② 月に4回以上ホームページを更新することができ、アクセス数も増加した。その中で、子どもの育ちや活動の意図を伝えることができた。また、2か月に1回、安全の日に遊びの様子と子どもの育ちをドキュメンテーションでまとめて掲示をし、保護者に教育内容を伝えた。2・3学期の始業式では、学期ごとの活動と子どもの育ちをパワーポイントにまとめて保護者に伝えた。大阪府公立幼稚園・こども園長会の保護者アンケートにおいて、「教育方針や子どもの様子をわかりやすく伝えていきますか」の項目で、肯定的回答は98%であった。幼稚園教育の理解が深まっており、さらに教職員自身の学びにもつながっている。

次年度の改善点
① 次年度も、園内・園外様々な研修に参加することで、さらに資質向上に努めていく。 ② 次年度も継続してホームページを定期的に更新し、更新していることを保護者や地域の方に伝えていくようにする。地域との交流行事の様子や子どもの育ちをホームページに掲載することで、地域への幼稚園教育内容の発信につなげる。

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立真田山幼稚園 学校協議会

令和 7 年 3 月 7 日（金）第 3 回学校協議会を行い、協議委員から下記の評価を受けた。

1 総括についての評価

保護者アンケートの結果がすべて高評価であり、園の教育内容についての保護者の満足度が高いことが分かる。実際に園での子どもの様子を見てみると、「運営に関する計画」に基づいて教育活動に取り組んできたことが、子ども一人一人また、集団として確実に育っていることが感じられる。また、教職員の情報共有や連携がとれていて、子ども、保護者への一人一人への細やかな対応、教育内容の充実が感じられる。

2. 年度目標ごとの評価

＜年度目標：安全・安心な教育の推進＞

①令和 6 年度の保護者アンケートで「安心して幼稚園で生活し、自分の思いを出したり、相手の思いに気づいたりできるようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度 62%）

②令和 6 年度の保護者アンケートで「いろいろなことに自信をもって取り組むようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度 63%）

園内委員会を定期的実施し、教職員間での情報共有ができています。そのことが、保護者も含め一人一人への細やかな働きかけとなり、安心して幼稚園生活を送ることにつながっている。また、教師同士の連携がしっかりととれていて、全教師が子どもみんなのことを知っているということが、安心につながっている。そのことも、保護者アンケートの高評価に大きく影響しているのではないかと。

異年齢の交流を進めていくことで、年長児の年下の友達を優しく思いやる姿、年中少児の年長児へ憧れから活動が活発になる姿が見られ、自分の思いを出したり、相手の思いに気づくことに大きく影響している。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上＞

①令和 6 年度の保護者アンケートで「主体的に活動する中で、友達と一緒に考え合いながら遊ぶことを楽しむようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度 64%）

②令和 6 年度の保護者アンケートで「自分の体を大切に、楽しんで体を動かして遊ぶようになった」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度 71%）

近隣の学校園、地域の人々などいろいろな人と出会い関わる機会が充実しており、人と関わることを楽しむ気持ちの育ちにつながっている。近くの就学前施設との横のつながりも、小中学校との縦のつながりも両方大切である。その関係を今後も深めていってほしい。

昨今子どもの運動機能の低下が問題になっている。園外の公園を利用したり、特に今年度は体力向上に関する外部講師を招いて活動したり、子どもの体力向上に向けての取組が工夫されている。走る、投げる、跳ぶなど多様な動きが楽しめるように、来年度も外遊びを充実させてほしい。

＜年度目標：学びを支える教育環境の充実＞

①進んで研修や研究に取り組み、保育を学び合う教師集団を育成していく。

②令和 6 年度の保護者アンケートで「家庭や地域への教育内容を分かりやすく伝えている」の項目で「そう思う」の回答を前年度以上にする。（昨年度 74%）

ホームページやポートフォリオ、プレゼンテーションなど、様々な形で発信できている。特に幼稚園の教育的な取組をアピールするのに効果的なホームページは更新回数が昨年度よりも増えていることが評価できる。このことがアンケートでの高評価になっている。素晴らしい環境や教育内容であるので、来年度も外部への発信を工夫して行ってほしい。

3 今後の学校運営についての意見

年度目標で挙げている取組は、全て大切な取組であるため、今後も進めて行ってほしい。

それぞれの取組における次年度の改善点をもとに、さらに幼稚園の運営の取組をバージョンアップして行ってほしい。